

連携充実加算実施のための説明会

2024年度 薬薬連携研修会

金沢大学附属病院 外来化学療法センター担当薬剤師

水野 ふみ

本日の内容

- ① (新)外来化学療法センターの紹介
- ② 当院での薬薬連携体制及び
がん薬物療法体制充実加算について

病院ではどのようなことを行っているのか

- ① **(新)外来化学療法センターの紹介**
- ② 当院での薬薬連携体制及び
がん薬物療法体制充実加算について

(新)外来化学療法センターの紹介

2024年1月～新しくなりました！



ベッド数	22→ 38 床
専任看護師	10 名
担当薬剤師	4→ 6 名 がん専門薬剤師 3名 外来がん治療専門薬剤師 1名
医師	1 名 (当番医：午前、午後で交代) 各診療科持ち回りで担当
化学療法実施件数	50-70 件/日
登録レジメン数	1322 件

(新)外来化学療法センターの紹介(2024年1月～)



患者さん
の流れ



- ① 来院
- ② 採血、診察
- ③ 外来化学療法センターで点滴
- ④ 会計
- ⑤ 院外薬局へ

外来化学療法センターでの薬剤師の役割

➤ 抗がん剤の準備・調製

- 投与量・患者背景の確認、薬剤の準備
- 当日は医師の診察後、投与可能の指示を確認
- **投与基準を満たすことを確認**、調製開始

➤ 薬剤指導 (レジメンシール提供)

- 初回投与時や継続的指導が必要な患者に対し、薬剤指導を実施
- レジメン・投与量・副作用状況を記載した**レジメンシールを提供**

お薬手帳に貼れる

➤ レジメン管理

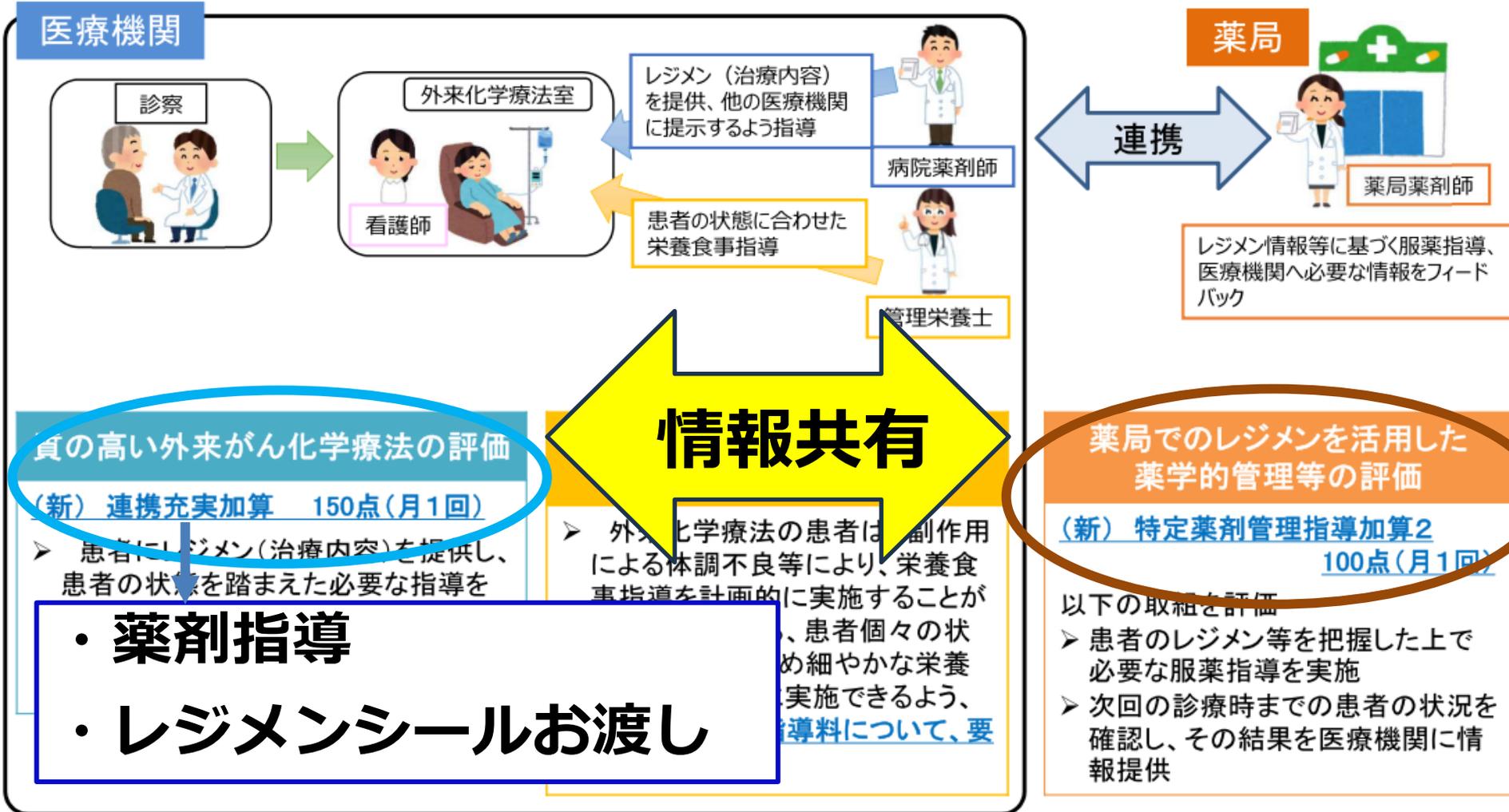
- 抗がん剤に加え**支持療法・輸液**などを管理
- 院内で使用するレジメンはレジメン審査委員会で審査・承認
(委員会は、外来化学療法センター担当薬剤師、医師、看護師、管理栄養士で構成)
- 各薬剤の適応の有無やエビデンスを考慮し、承認可否を判断

本日の内容

- ① (新)外来化学療法センターの紹介
- ② 当院での薬薬連携体制及び
がん薬物療法体制充実加算について
- ③ 質疑応答

医療機関と薬局との連携

外来がん化学療法の質向上のための総合的な取組



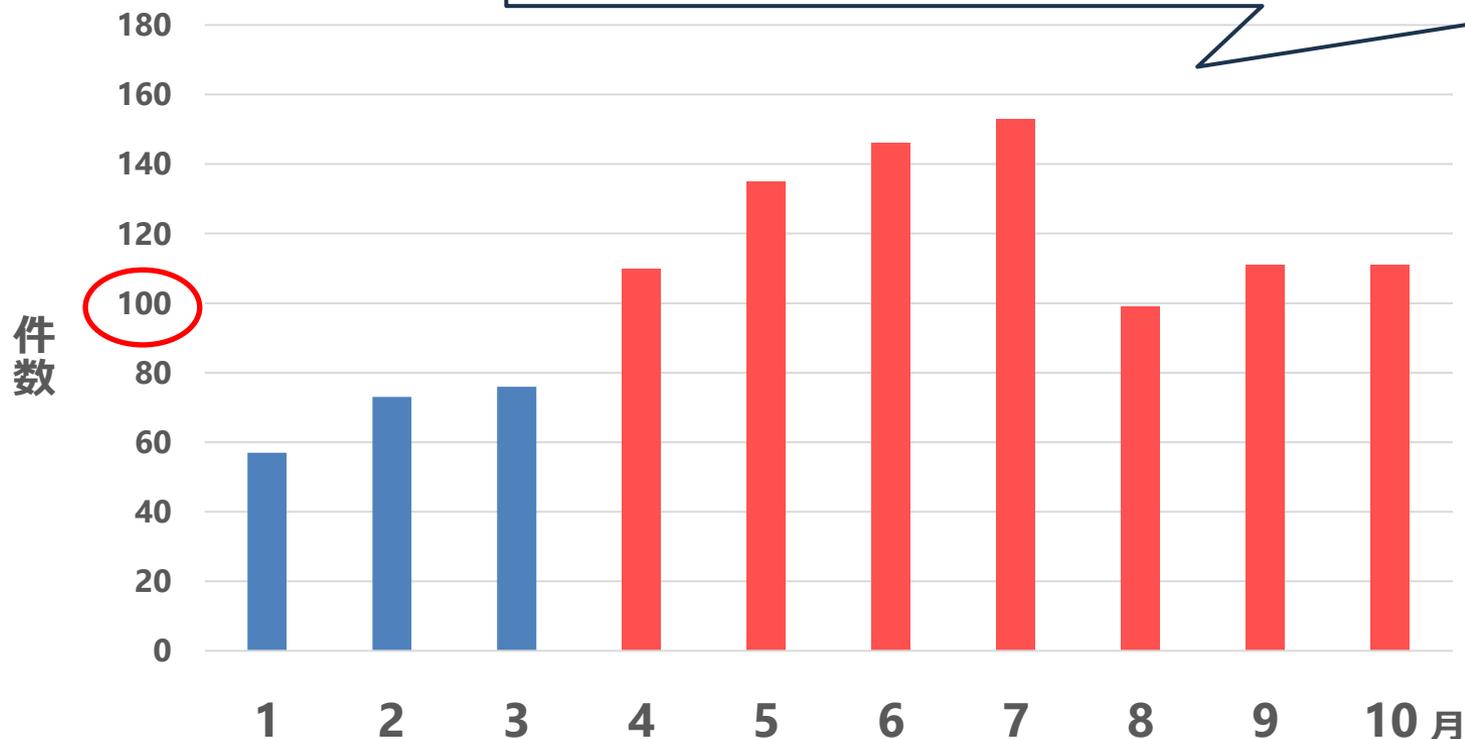
連携充実加算

2024年度より対象患者を拡大

主に初回の患者



投与量が変更になった患者
経口抗がん剤併用レジメン(例：GEM+エスワン)の患者
薬局への情報提供が必要と考えられる患者



2024年度～100件/月以上を達成

がん薬物療法体制充実加算について(2024年診療報酬改定)

外来腫瘍化学療法診療料の見直し④ (がん薬物療法体制充実加算)

がん薬物療法体制充実加算の新設

- 悪性腫瘍の患者に対する外来における安心・安全な化学療法の実施を推進する観点から、医師が患者に対して診察を行う前に、薬剤師が服薬状況や副作用の発現状況等について収集・評価を行い、医師に情報提供、処方に関する提案等を行った場合の評価を新たに設ける。

(新) がん薬物療法体制充実加算 100点(月1回に限り)

[算定要件]

外来腫瘍化学療法診療料1のイの(1)を算定する患者に対して、当該保険医療機関の医師の指示に基づき薬剤師が服薬状況、副作用の有無等の情報の収集及び評価を行い、医師の診察前に情報提供や処方の提案等を行った場合に月に1回に限り所定点数に加算する。

来院・採血

診察前の時間を活用

薬剤師の面談

- 患者情報の収集・評価及び医師との情報共有
(服薬状況、副作用の有無等)
 - 患者から聴取した情報
 - 薬局から提供された情報

がん薬剤師外来を開設

とが望ましい。)以上有する専任の常勤薬剤師が配置されていること。

- 患者の希望に応じて、患者の心理状況及びプライバシーに十分配慮した構造の個室を使用できるように備えていること。
- 薬剤師が、医師の診察前に患者から服薬状況、副作用等の情報収集及び評価を実施し、情報提供や処方提案等を行った上で、医師がそれを踏まえて、より適切な診療方針を立てることができる体制が整備されていること。

- ※副作用等情報や処方提案等について、薬剤師が「医師の診察前」に共有することで円滑に当日の処方や指示に反映させることができる
- ※医師の診察にかかる時間を短縮できる

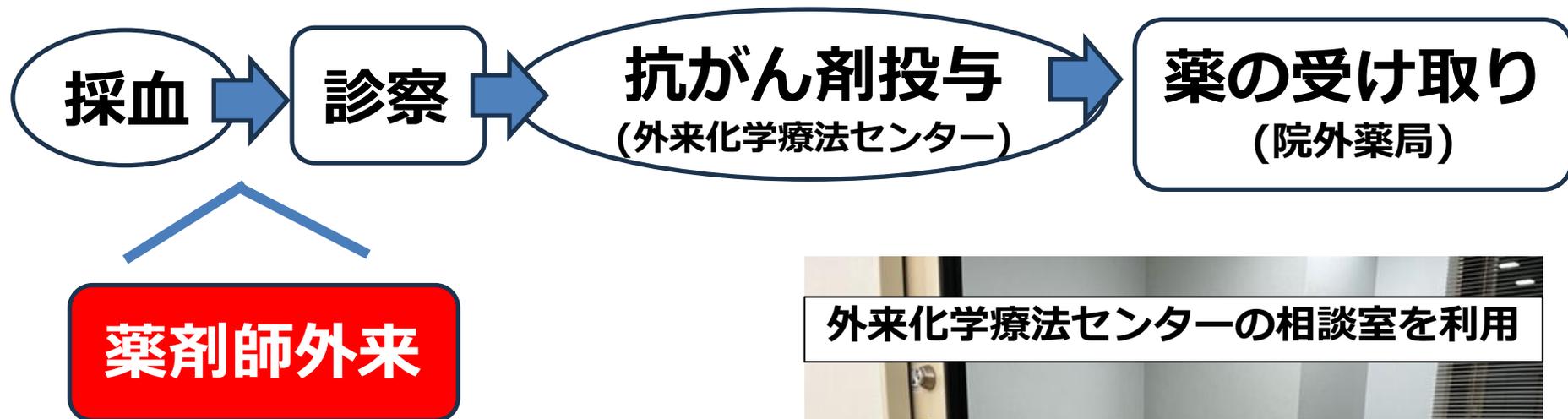
医師の診察

外来化学療法室で
抗悪性腫瘍剤投与



薬剤師外来

がん薬剤師外来の流れ



- ・ 採血～診察までの待ち時間を利用
- ・ 予約制で前日までに医師が予約する
- ・ プライバシーに配慮した個室を利用
- ・ 2024年10月は14件実施
(8月に開始し12-15件/月程度)



薬剤師外来

面談内容

- ・ **服薬状況の確認**
- ・ **副作用発現の有無**
- ・ 薬の説明
- ・ 治療薬に関する相談応需 など

院外薬局からの
トレーシングレポートを活用

診察の前に
情報提供・処方提案

吐き気がひどい→制吐剤強化
爪囲炎が悪化→抗がん剤減量
の提案など

診察前に情報共有することで当日の処方や指示に反映
医師の診察にかかる時間の短縮

- ・ 外来化学療法センター拡大・薬剤師の増員に伴い、薬局との連携を目的とした連携充実加算の実施件数は増加
- ・ 令和6年の診療報酬改定にて新しくがん薬物療法体制充実加算が追加。がん薬剤師外来を開設し、外来化学療法がより安全に遂行できるような取り組みを行っている
- ・ 病院と薬局の連携は、外来化学療法の質向上にとっても重要

ご静聴ありがとうございました

